

インターンシップ成果報告書

01. インターン先、期間：

The Mirror Foundation（タイ王国、チェンライ県）、5週間

02. インターンシップの動機：

インターンシップの動機は(1)人権問題の対処方法を、NGOの現場でNGOの職員の立場から考え、自身の視野を広げ問題解決能力を養うことでした。また、リサーチテーマがNGOの影響力を国際政治上無視できなくなったことと関係しておりますので、(2)影響力の大きいNGOはどのようにして存在感を高め、資金を集めているのかを具体的に知りたいと思いました。そして日本では認知度がなかなか上がらないNGOを、どのように影響力を大きなものにし、社会問題解決能力を養うかについて、理解を深めたいと思いました。

03. 成果等：

(1) に関しましては、支援を必要としている人を巻き込み、自立を促すことが、人権問題対処において重要になってくると思いました。(2) に関しましては、NGOは影響力を大きくさせている方法の1つとして、発信力が重要になってくるということに気づきました。

(1) 支援を必要としている人を巻き込み自立を促すという点についてですが、私はインターン初日、インターン先の職員で少数民族の人が相当数いるということに驚きました。少数民族は支援される側であるという認識が、インターン前にはありましたが、むしろ少数民族と協力して行わなければ、少数民族の問題を解決することは出来ないと感じました。少数民族の村の観光業を後押しすることや、独自の言語をもつ少数民族の村でタイ語を教えるという活動は、少数民族の協力なしではできないことです。少数民族と協力しながら少数民族の問題解決の面で成果を上げていることは、NGOの力を示すこととなり、さらに世論での知名度を上げることもつながります。

(2) 発信力についてですが、もともと受け入れ先のNGOは地元の大学生を中心とした若者が24年前に立ち上げたものです。成立当初、名前は当然知られていませんでしたが、現在のタイ国内では、NGOの中では名のある大きな組織という認識が広まっています。ここまで成長できた理由は発信力であると考えました。ミラー財団はインターネットやSNSを早くから利用していただけでなく、TV局や新聞社という影響力の大きなメディアの協力を何度も得ることに成功しています。少数民族が国籍法にのっとり適切に国籍を申請しているにもかかわらず、役人の悪意によって国籍取得を認めなかった事件を、TV局の極秘カメラの映像と共に全国に放送したことがあり、役人や政府組織は世間から非難されました。このように世論を味方につけることは、政府を動かす上で大きな効果を持っています。NGOはまず所在地の国内世論を味方につけることで影響力が増すといえます。さらにもっと発展し、国際社会でも知名度を上げることができます。例えば受け入れ先NGOはILOやアメリカ大使館などあらゆる海外組織や国際組織から支持を得、プロジェクトの支援金を受け取っています。

最後に、今回の受け入れ先の人権促進活動や影響力拡大方法は、タイの少数民族を支援する現地NGOのみにしか通用しない方法であるのか、日本や他の国、さらに他の地球規模課題に挑戦しているNGOでも、同様の方法で効果があるのかについて、研究の余地があると感じました。